



ユーラシア研究所レポート No.44

2015 年 4 月 12 日

油価下落とアゼルバイジャン経済

蓮見 雄

概要

アゼルバイジャンは BP など外資との協力によって資源開発を促し経済発展を遂げたが、それは油価依存型構造をもたらした。油価下落によって石油基金は減少に転じ、ばらまき政策ができなくなる中、外資との協力強化と産業の近代化はアゼルバイジャンの喫緊の課題となっている。

1. アゼルバイジャン経済概観

アゼルバイジャンのイリハム・アリエフ大統領（以下「アリエフ大統領」とする）は 2015 年 1 月 10 日、首都バクーにて開催された拡大閣僚会議において 2014 年の経済を総括し「実質国内総生産（GDP）成長率 2.8%、インフレ 1.4%。アゼルバイジャン国内への新規投資は計 270 億ドルであり、そのうち 160 億ドルが国内からの投資、残りが海外からの投資となった」と報告した。

アゼルバイジャンは 1990 年代後半から、カスピ海における石油投資ブームを背景に順調な経済発展を遂げていたが、2008 年の世界金融危機はアゼルバイジャン経済を直撃した。その後カスピ海における原油生産拡大に伴い、経済は回復基調となったが、2011 年以降は同国の原油生産量は減少している（後述）。現在は再び回復基調にあるが、輸出額の 9 割以上を原油・石油製品・天然ガスが占めてお

り、産業の近代化が喫緊の課題となっている。

独立直後のアゼルバイジャンは混乱していたが、故ヘイダル・アリエフ氏が1993年6月に同国3代目の大統領就任した後、国は安定した¹。その後、故ヘイダル・アリエフ大統領はカスピ海の海洋開発に積極的に乗り出し、英国大使にカスピ海海洋開発を相談した。英国大使はBPを推薦して、ここに故ヘイダル・アリエフ大統領・BP・アゼルバイジャン国営石油会社（SOCAR）の協力関係が始まった。

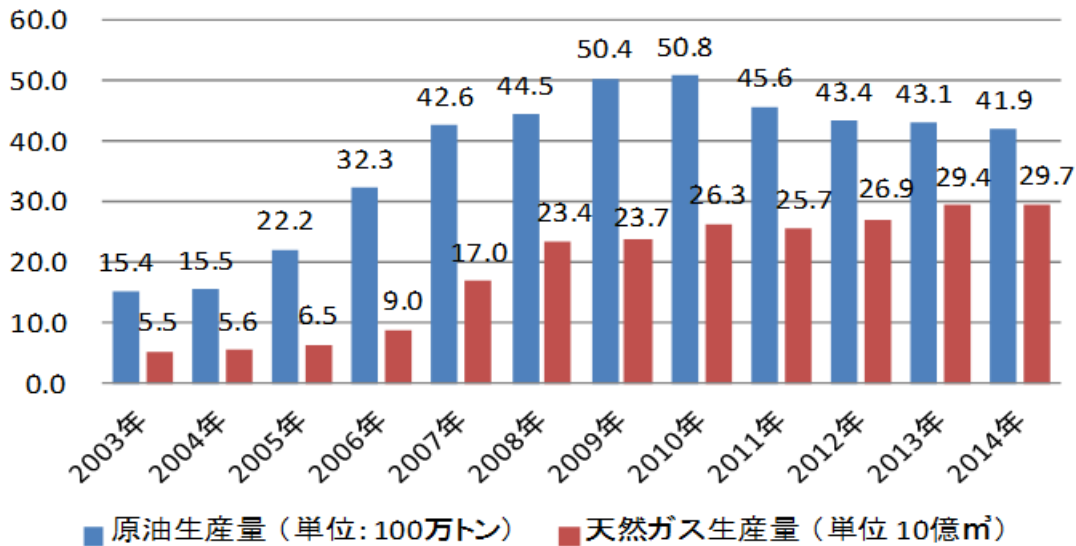
2012年末現在のアゼルバイジャンの戦略的外貨準備高（石油基金+金・外貨準備高）は460億ドルであったが、2013年末現在に500億ドルとなった。2014年4月1日現在の国家戦略外貨準備高は過去最高の530億ドルに達したとアリエフ大統領は発表した。だが、2015年1月1日現在の国家戦略外貨準備高は508億ドルへと減少している²。

2. アゼルバイジャンの原油・天然ガス生産量推移

アゼルバイジャンのバクー陸上油田は世界最古の商業油田といわれる。1848年に原油の商業生産開始後、1900年には世界の原油生産の約半分がバクー油田であった³。しかし、陸上原油は既に生産量が減退している。原油生産量も2010年以降減少しており、政府は生産拡大のため、積極的に外資誘致策を推進している。ソビエト連邦崩壊後、1993年にアゼルバイジャン大統領に就任した故ヘイダル・アリエフ大統領はBPとアゼルバイジャン領海カスピ海の海洋油田開発に乗り出した。カスピ海のアゼリ・チラグ・グナシリ海洋鉱区（ACG鉱区）では、1997年11月に原油生産が開始された。

アゼルバイジャン政府は2014年10月、同国の原油生産量予測を発表した。2014年の原油生産量は4,165万トン、2015年は4,062万トン、2016年は4,077万トン、2017年は3,942万トン、2018年は4,032万トンとの見通しである⁴。これまでのアゼルバイジャンにおける原油・天然ガスの生産量推移は図の通りである。

図 アゼルバイジャンの原油・天然ガス生産量推移



注：2008 年以降の天然ガス生産量はグロス生産量、2007 年まではネット生産量（グロス生産量－フレアリング（燃焼）－地下圧入）

出所：SOCAR 資料を基に筆者作成

アゼルバイジャン国家統計委員会発表の 2014 年の原油生産量は 4,190 万トン（前年比 2.9%減）、天然ガス生産量はグロス 297 億立方メートル、ネット 187 億立方メートルとなった。原油輸出量は 3,300 万トン（同 3.5%減）、天然ガス輸出量は 86 億立方メートル（同 17.6%増）となった。2010 年を境に 2011 年から原油生産が漸減しているが、これはカスピ海 ACG 鉱区における原油生産量の減少によるものである。SOCAR のアブドラエフ社長は 2013 年 9 月、2010 年以降アゼルバイジャンの原油生産量は減少しているものの、2013 年に底を打ち、2014 年以降は回復するとの見通しを発表したが⁵、実際には減少傾向が続いている。

今後の原油生産量回復の鍵は、外資導入によるカスピ海海洋油田開発プロジェクトである。アゼルバイジャンで最初に調印された Azerbaijan International Operating Company (AIOC) プロジェクト（ACG 海洋鉱区／1994 年 9 月調印）では、1997 年 11 月生産開始以来、2014 年末までに累計約 4 億トンの原油が生産

された。ここで生産される原油の大部分は、輸送のチョークポイントとなるボスポラス海峡を通過せず、バクー・トビリシ・ジェイハン（BTC）パイプラインで、トルコの地中海沿岸ジェイハン基地より世界市場に出荷されている。しかし、これ以外、カスピ海では原油商業生産は始まっておらず、今後の原油生産回復・増産のためには、カスピ海海洋鉱区のさらなる探鉱・開発が必要である。カスピ海沿岸 5 カ国ではカスピ海海洋鉱区の探鉱・開発に進出しているが、国によって開発速度に濃淡があり、最も進んでいるのはアゼルバイジャンである。

3. アゼルバイジャン国家石油基金（SOFAZ）の概要

1) SOFAZ 設立の経緯と目的

SOFAZ は 1999 年 12 月 29 日付「SOFAZ 設立に関する」大統領令 No.240 により設立が決定され、1 年後の 2000 年 12 月 29 日付大統領令 No.434 によって運営形態が確立した。その後、2001 年 6 月 19 日付「SOFAZ 資産運営規定（Asset Management Rules：AMR）」に関する大統領令 No.511 により、実務を開始した。

SOFAZ 設立の目的は、アゼルバイジャンの天然資源収入を効率的に運用して、現世代および次世代の福祉向上に活用することであり、その後の政治・経済の安定化に寄与した。SOFAZ 設立は故ヘイダル・アリエフ大統領の功績とあってよいだろう。

2) SOFAZ 資産の収入源と支出

SOFAZ の収入源は生産物分与契約（PSA）の国家取り分・PSA ボーナス・投資運用益・アゼルバイジャン領内における天然資源トランジット収入・無償援助金などである。SOFAZ は収入の約半分を国庫予算に編入している。国家的規模のプロジェクトにも財政支援しているが、2013 年からは海外の不動産購入を開始した。また、同年から金（Gold）の購入も開始したが、購入後に金価格が下がったため、評価損を出している可能性がある。

3) SOFAZ 資産の現状

ACG 鉱区では 1997 年 11 月に原油生産が始まり、SOFAZ は 1999 年 12 月からプロフィット・オイル（PSA に基づく原油収入）の受領を開始した。以後、2015 年 1 月末までに ACG 鉱区から累計 1,110 億ドル以上のプロフィット・オイルを得

ている。なお、SOFAZ 収入の 9 割以上が ACG 鉱区によるものといわれている。

アリエフ大統領は SOFAZ に対し、2015 年度国家予算に石油基金から 104 億マナト（132 億ドル）を編入するよう指示した。この編入額は 2015 年度国家予算歳入案の 53.4%に相当し、過去最大の国庫編入金額となった⁶。

また、アリエフ大統領は 2015 年 1 月 19 日、SOFAZ の 2015 年度予算案を承認した。同予算によれば、収入 102 億 5,000 万マナト、支出は 118 億 1,000 万マナトであり、収入のうち 99 億 4,000 万マナト（97%）が PSA からの収入となる（2015 年 2 月の平均為替レートは 1 マナト≒1.27 ドル）。

4. アゼルバイジャン経済に対する油価下落の影響

アリエフ大統領は 2014 年 12 月 24 日、2015 年度国家予算案に署名した。同予算によれば、2015 年の国庫歳入は 194 億マナト、歳出は 211 億マナトで、17 億マナト（GDP 比 2.8%）の赤字となった（2014 年度国家予算は、歳入 184 億マナト、歳出 200 億マナトで 16 億マナトの赤字であった）。想定油価は 1 バレル 90 ドルである。

アゼルバイジャン政府は 2015 年 2 月現在、2015 年度国家予算案の見直しを検討中である。想定油価 90 ドルは 50～60 ドル程度に引き下げられることになるだろう。アゼルバイジャン経済は、いわば「油上の楼閣」である。油価高騰・高止まりは、アゼルバイジャン経済にとって必ずしも良い結果を生むわけではない。油価上昇局面では、国民に対するばらまき政策も可能だが、産業の近代化への意欲が遠のいてしまう。逆に油価の下落は、経済を直撃する。

アゼルバイジャン統計委員会発表によれば、2014 年（1～12 月）の貿易総額は 310 億 2,000 万ドル（前年比 10.6%減）となり、そのうち輸出額 218 億 3,000 万ドル（同 9.0%減）、輸入額 91 億 9,000 万ドル（同 14.2%減）で、126 億 4,000 万ドル（同 4.7%減）の黒字となった。輸出額のうち、原油 84.3%、石油製品 6.3%、天然ガス 1.4%（計 92%）であった。これまでは原油・石油製品・天然ガス総計が 94%以上を占めていたので、油価下落が影響している。

世界銀行のアゼルバイジャン担当者は、2015 年 2 月 9 日、アゼルバイジャンの首都バクーで開催された第 4 回税務会議において、アゼルバイジャン経済はこの

ままでは中長期的に困難に陥ると予測した。世界銀行の油価予測は、2015 年は 1 バレル 53 ドル、2016 年は同 57 ドルになっており、アゼルバイジャンの油価依存型経済構造に警鐘を鳴らした。なお、アゼルバイジャンの代表的油種であるアゼリ・ライトの 2015 年 1 月中旬の平均輸出油価は 1 バレル 49 ドルとなっている（同期間の北海ブレント同 46 ドル、ロシア・ウラル原油同 43 ドル）。アゼリ・ライトの 2014 年平均輸出油価は 1 バレル 105 ドルであり、油価は半減したことになる。

この結果 2015 年 2 月 21 日、アゼルバイジャン政府はマナトの 対米ドルの公式レートを 1 ドル=0.78 マナトから 1.05 マナトへと 3 分の 1 以上切り下げた。この大幅な通貨切り下げは、90 ドルの油価を想定していた国家予算の減少分を相殺する役割を果たす。しかし、通貨安はインフレを刺激し、外債の負担を急増させる。2014 年の融資の 27.2%は外貨建てであった。しかも、2015 年年初から、多くの銀行が通貨切り下げを懸念してドル建ての消費者金融を強化していた⁷。

2014 年、アゼルバイジャン国家戦略備蓄額（金・外貨準備高+石油基金）が初めて減少に転じた。さらに通貨切り下げによりインフレが進むとともに、債務負担が膨らみ、国民の不満が高まる可能性が生じている。石油基金が減少し、ばらまき政策が不可能になるとき、国民はアリエフ政権に不満を表明し、同国の政治・経済は不安定化するかもしれない。油価依存型経済構造から脱却するために、産業の近代化を目指したプランと外資との協力を強化する政策に真剣に取り組むべき時が来ているようだ。

¹ 現在のイリハム・アリエフ大統領は故ヘイダル・アリエフ大統領の長男

² Azer Press (2015.2.9)

³ SOCAR 資料

⁴ 2013 年の原油生産量は 4,315 万トン。内訳は、ACG 原油 3,220 万トン、Shah Deniz 248 万トン（ガス・コンデンセート）、残りは SOCAR となった（合併会社を含む）。

⁵ RusEnergy (2013.9.23)

⁶ Azer Press (2014.11.12)

⁷ К о м м е р с а н т ъ, No.31 (2015.2.24)

付記：本稿執筆に当たり、杉浦敏広氏から資料提供、助言など協力を得た。

[執筆者]蓮見 雄（立正大学経済学部教授、ユーラシア研究所事務局長）

（※このレポートは、2015年3月10日付で三菱東京UFJ 銀行グループが海外の日系企業の駐在員向けに発信しているウェブサイト MUFG BizBuddy に掲載されたものです。）